

# 令和5年度 東京都立神代高等学校（全日制課程）学校経営報告

東京都立神代高等学校長 小林 正人

## 1 今年度の取組と自己評価

### (1) 教育活動への取組と自己評価

#### ① 生活指導：自律的生活習慣の確立と規範意識の徹底 【自己評価 B】

ア 頭髪指導も全学年定着し、時間厳守・人の話を聞くこと等の重点目標も概ね徹底できた。全校体制での遅刻指導により、3年生の遅刻者は昨年度と同等の水準を維持できた。SNS、スマートフォンのマナーの徹底が課題である。

#### ② 学習指導：学習習慣の確立と自学自習力の育成 【自己評価 B+】

ア 観点別評価の実施に伴い、評価方法について教科主任会で共有し、理解を深めた。

イ 図書委員会の推薦文作成やビブリオバトルの開催など、生徒の読書活動に対する意欲を上昇させ、図書館の貸し出し冊数が増えた。今後も読書を促す活動を継続する必要がある。

ウ 授業観察後の指導・助言などにより、各教員の授業力向上に努めた。

#### ③ 進路指導：3年間を見通した計画的進路指導の確立 【自己評価 A】

ア 3年間を見通した進路指導計画を昨年度の状況を踏まえて改善を加えつつ実施した。拡大進路指導部会及び全教職員参加の進路研修会を実施し、生徒の学習状況を共有して進路指導部を中心とした学校全体での組織的な取り組みへと改善した。

イ 進路指導部から模擬試験のデータの提供がスムーズに行われ、共有及びデータの蓄積が進んだ。個人情報の保護を確保した上で、データベース化が進んだ。模擬テストの振り返りや分析結果の活用について改善していくことが課題である。

ウ 国公立大学の合格者数は昨年の4名から6名へ、GMARCH以上の私立大学への合格者数は昨年の84名から145名へと増加する結果となった。在校生については、家庭学習時間を増加させるなど、第一志望実現に向けた指導を今後も継続する。

#### ④ 特別活動・部活動 【自己評価 B】

ア 新型コロナウイルス感染症第5類移行に伴い、学校行事・部活動ともに感染予防に注意しながら依然と同様の活動を実施した。生徒に実施について感染予防の観点から方法を工夫させることで、自主的・自律的な活動の体験をさせることができた。

イ 校舎改築の終了とともに体育館およびテニスコートとプール、グラウンドが使えるようになり、運動部の活動において従来の形態を取り戻すことができた。

#### ⑤ 地域との連携 【自己評価 C】

ア ボランティア活動等に参加し、地域と連携した体験的な活動を行ったが、一部の生徒の参加にとどまった。

イ 地域と連携した防災訓練は実施するとともに、学校運営連絡協議会・防災推進委員会の委員と情報交換を行った。

#### ⑥ 健康づくり 【自己評価 B】

ア 体力増進については、体育科を中心に指導している。例年、年度末に行っている持久走タイムトライアルを実施した。今後も体育活動や部活動中の事故の未然防止や感染症対策に向けた取組みを強化する必要がある。

イ 学校保健委員会、教育相談委員会を定例以外にも必要時に開催し、生徒の心身の健康状況について情報を共有することにより、様々な課題に適切に対応することができた。養護教諭・スクールカウンセラーと連携し、必要に応じてケース会議を複数回実施した。

#### ⑦ 募集・広報活動 【自己評価 B】

ア 学校見学会・説明会等は、参加希望者をなるべく受け入れられるよう工夫し、多くの参加者を集めた。

イ 学校案内を刷新し、中学生や保護者へ効果的なPRを行った。また、外部説明会へ参加等し、高い応募倍率を維持した。

ウ ホームページによる情報発信について、平均月6回更新を行った。部活動の随時の情報提供が一部の部活動に限られたが、今後改善していく予定である。

#### ⑧ 学校経営・組織体制 【自己評価 B+】

ア 広報活動を教務部が担えるようになってきた。今後も教務部を中心に学校全体の組織的な取組みにするよう改善していく。

イ 計画的な予算執行を達成するとともに学校広報予算の拡充に努めた。

ウ 服務事故防止研修を年3回実施するとともに、体罰防止研修を実施し、事故の防止に努めた。

エ 様々な休暇制度の取得を奨励すると共に、時差勤務やテレワークを積極的に活用し、ライフ・ワークバランスを推進した。今年度は2名の男性教員が育児休業を取得した。

### (2) 重点目標への取組と自己評価

#### ①自ら学ぶ姿勢・意欲の向上と個に応じた指導の充実 【自己評価 B】

- ア 「予習→授業→復習」の学習習慣が身に付きつつある生徒もいるが、全体的には十分には確立しなかった、今後も改善に向けた取組を継続する必要がある。
- イ 一昨年度から継続している全校体制での遅刻指導の実施により、引き続き遅刻者数を減らすことができた。
- ウ ほとんどの教員が ICT を活用し、効果的な授業を実践できた。今後も活用方法を工夫し、学習時間の増加に向けた取組を推進する。
- エ ケース会議を通じて生徒の状況を共有するなど、個に応じた効果的な指導を組織的に行うことができた。  
その結果数名の転学者は自己の特性に応じた進路を選択することができた。しかし、不登校の状態継続して指導する生徒もいて、今後も保護者、医療機関と連携したきめ細かな対応を継続していく

## ② 国公立大学・難関私立大学への進学希望の実現 【自己評価 A】

- ア 国公立大学の合格者数は昨年の4名から6名へ、GMARCH以上の私立大学への合格者数は昨年の72名から146名、日東駒専は27名増になるなど大幅に合格実績を上げることができた。
- イ 長期休業日中の補習・補講は70講座を維持した。2学期以降、土曜日の校内での模試に参加して力をつけていく生徒も多く見られた。ただ、教員個人に頼っている状況もあり、さらなる組織的な取組みが必要である。
- ウ 各種模擬試験の事前・事後指導は一部の教科で実施した。今後は全教科での実施を目指す。
- エ 進路指導部主導で模試の年間指導計画を改善するなど組織的で継続性のある進路指導を確立しつつある。

## ③ 募集・広報活動 【自己評価 B】

- ア 学校案内を改善するとともに、外部説明会に積極的に参加し、応募倍率の高い水準を維持した。
- イ 学校見学会・説明会等は、参加希望者をなるべく多く受け入れられるよう工夫し、多くの参加者を集めた。
- ウ ホームページによる情報発信について、平均月6回更新を行った。部活動の随時の情報提供が一部の部活動に限られたが、今後は改善していく予定である。

### 【数値目標】

	目標	結果	昨年度
① 年間遅刻総数の前年度比	5%減	5%増	(5%減)
② 部活動加入率	90%	90%	(89%)
③ 授業外の学習時間	2時間以上	60分	(平均60分)
④ 長期休業中の講習の延べ講座数	70講座	70講座	(70講座)
⑤ 現役国公立大、GMARCH以上の私大合格者数	85名	152名	(76名)
⑥ ホームページ更新回数	月7回	月6回	(月6回)
⑦ 中学校進学対策協議会応募希望者数	2.00倍以上	1.89倍	(2.20倍)

## 2 次年度以降の課題と対応策

### (1) 自律的生活習慣の確立と生徒の自主的活動の支援

SNSの正しい利用方法について、教職員の研修を行い、全学年共通の指導を実現する。遅刻についても引き続き日常の積み重ねの重要性を全校体制で指導し、減少を実現させる。挨拶を教職員自ら励行し、日常的に挨拶ができる生徒の育成を図る。また、部活動・行事における生徒の自主的・自律的活動を支援し、「切り替えと集中」による、けじめある学校生活を実現する。

### (2) 学ぶ姿勢・意欲の向上と授業改革

1学年に対し、「予習→授業→復習」の学習習慣を確立するために、学習ガイダンスを実施する。授業改善に向けた研修会を実施し、実践的な研究を推進する。模擬試験の事前・事後指導を充実させ、結果分析の活用及び全教職員による共有も更に進める。

### (3) 3年間を見通した進路指導の確立

拡大進路指導部会、進路研修会等を通して全教職員で情報を共有し、3年間を見通した進路指導計画の更なる改善を行う。

### (4) 組織体制の整備

業務の適正な分担を進め効率的な組織運営を図る。情報の共有を進め、全定の連携を一層強化して学校運営を進める。